

春季休暇中の長期貸出を行ないます

開架図書 3月17日(木)～29日(火)

書庫内図書

院生・教職員

3月1日(火)～11日(金)

学部学生

3月17日(木)～29日(火)

返却期限日はいづれも

4月13日(水)です。

(資料運用掛)

3月で卒業・修了される皆様をお願いします

現在図書を貸出中の方は、図書の最終返却期限日の3月12日(土)までに、必ずご返却ください。

附属図書館への入館・資料の閲覧は3月末まで可能ですが、貸出の最終日が、開架図書は2月26日(土)、書庫内図書は2月25日(金)となっていますので、ご注意下さい。

(資料運用掛)

報

告

平成5年度附属図書館展示会「京洛出版の軌跡－五山版、古活字版、八文字屋本－」ならびに併設展「古典籍の修復と複製」

附属図書館では、平成5年度展示会を平成5年12月1日(水)から12月10日(金)まで、日曜日を除く9日間、本館展示ホールで開催しました。今回は、平成6年の平安建都1200年を前にして、中世から近世にいたる京都における出版の歴史に焦点をあわせました。

日本における本格的出版の始まりともいわれる鎌倉時代からの五山版ならびに寺院版、安土桃山時代にヨーロッパあるいは朝鮮などから伝わった活字印刷技法を利用した古活字版、江戸時代に浮世草子の出版で一時代を画した京都の書肆八文字屋による八文字屋本という三つの柱を中心に、附属図書館、文学部、人文科学研究所、医学部、総合人間学部などで所蔵する貴重な図書の他、南北朝時代の版木や、徳川家康の命によって作られたといわれる円光寺版の木活字など160点余りを展示し、学内外に広く一般公開しました。

また併設展では、修復の済んだ貴重書の例として、重要文化財に指定されている清家家学書『易学啓蒙抄』一点を展示し、貴重書の複製の例として、歌舞伎の起源を研究する上で貴重な資料とされている『國女歌舞妓繪詞』の原本、昭和26年の複製本、および平成5年の複製本の三点を並べて展示しました。また、未修復の貴重書の例として、平安時代に筆写されたといわれる『幼学指南鈔』を展示し、古典籍の修復や複製本の作成は、それら資料の保存と利用の両立を図るためにも、緊要な方法の一つであることへの理解を求めました。



展示会は連日賑い、合計959名の入場者があり、ホールでは日頃なかなか目にすることができない貴重な資料に入場者は熱心に見入っていました。

12月7日(火)には、本学の濱田啓介総合人間学部教授による「本屋と草紙屋」と題する講演会が本館A Vホールで開かれ、一般市民ならびに教職員、学生など、定員をはるかに上回る151名が熱心に聴講しました。

今回の展示会は、本館の所蔵資料だけでなく、学内各部局の貴重な資料をお借りして、開催することができたものです。また、総合人間学部の浜田啓介教授には、ひとかたならぬご指導とご協力をいただきました。あわせ記して、厚くお礼申し上げます。

(雑誌・特殊資料掛)

